

＜令和6年度 全国高等学校長協会家庭部会事業報告 概要＞

1 常務理事会、全国理事会・研究協議会、総会・研究協議会

(1) 常務理事会、全国理事会並びに研究協議会

5月20日(月)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)を会場に、第1回常務理事会、続いて第180回全国理事会・研究協議会を開催した。常務理事会では、全国理事会や総会の運営等についての協議。全国理事会では、家庭部会常務理事会並びに振興会の報告、役員の人事異動による任期途中の辞任に伴う選任を行った。理事長には埼玉県立鴻巣女子高等学校 小川 剛校長、副理事長に千葉県立佐倉東高等学校 相澤 直幹校長。任期内の本部役員は、栃木県立宇都宮中央高等学校 高木 伸一校長、東京都立東村山高等学校 富川 麗子校長で、本部の新役員体制が整った。

(2) 総会・研究協議会

第111回総会・第131回研究協議会(春季)は、5月21日(火)にアルカディア市ヶ谷(私学会館)を会場に、91名の校長の参加を得て開催した。開会式では、理事長及び本次前理事長の挨拶、文部科学省初等中等教育局産業教育振興室長 大久保 享之様、公益財団法人産業教育振興中央会専務理事 岩井 宏様からのご祝辞、続いて校長功労者40名を代表して、群馬県立館林商工高等学校前校長 和田 安弘様に理事長から表彰状の贈呈と和田様からのご挨拶。その後、令和5年度の振興会役員・事業報告等があり、協議では、令和5年度家庭部会の事業報告・会計決算報告、令和6年度家庭部会の事業計画・予算案、家庭に関する研究大会等の開催予定案の審議が進められ、案はすべて承認された。

調査研究委員会報告等の後には、「コミュニケーションの力でサステナブルな社会実現に向けて～企業の取組・三菱電機～」と題して、三菱電機㈱社宣伝部METoAコミュニケーショングループ 森岡 玲永子様からのご講演、そして、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 田邊 暁子様から「学習指導要領のよりよい実施を目指して」と題した講話をいただいた。

(3) 第132回研究協議会(秋季)＜静岡大会＞について

静岡県立清水西高等学校(堀之内 育子校長)を主管校に、10月10日(木)・11日(金)の2日間、約130名の参加の下、アクトシティ浜松コンgresセンターを会場に開催された。1日目は、フードランドグループ 代表取締役社長 中村 健二氏による「『MOTTAINAI』ビジネスが世界を救う」と題した講演の後、6名の提案発表があった。静岡県立御殿場高等学校 西川 勝啓校長「家政科→情報デザイン科→生活創造デザイン科への変遷」、香川県立高松南高等学校 吉田 稔校長「生活デザイン科の多彩な取組 ～魅力ある実践を通して生徒の将来に繋げる～」、鹿児島県立奄美高等学校 脇 浩一校長「『あまかせ』がつなぐ 人・地域・伝統・未来」、愛知県立豊橋南高等学校 有賀 洋之校長「『家庭基礎』におけるICT機器の活用について～一人一台タブレット端末の有効活用に向けて～愛知県立高等学校長協会の研究から」、高知県立春野高等学校 藤田 優子校長「総合学科における家庭科教育の取組」、沖縄県立嘉手納高等学校 平良 博志校長「地域に開く教育課程～嘉手納高校・地域連携の実践～」。

2日目の研究協議では、「家庭科教育の在り方や期待すること」をテーマにグループ協議、調査研究委員会からの報告があった。その後、文部科学省教科調査官 田邊 暁子様から「学習指導要領の着実な実施に向けて」と題した講話をいただいた。

(4) 第181回全国理事会並びに研究協議会

令和7年2月7日、ホテルメトロポリタンエドモントを会場に47名の校長の参加を得て開催した。家庭部会事業・会計決算中間報告や令和6年度の関係大会の報告があった。協議では、「令和6年度家庭科教員表彰者」38名について承認された。また、研究協議会(秋季)提案校のA・Bの区分について、「A：家庭学科設置校又は家庭系列のある総合学科の学校、B：Aを除く学校」への変更が承認された。

2 家庭科実践研究会、小学科校長会、家庭科調査研究委員会活動等

(1) 第68回全国高等学校家庭科実践研究会＜群馬大会＞について

群馬県立伊勢崎高等学校(高橋 みゆき校長)を主管校として、「力あわせる家庭科教育～多様性を認め、協働、探究し続ける力を育む～」をテーマに、8月8日(木)・9日(金)の2日間、約200名の参加の下で開催された。1日目はGメッセ群馬を会場に、文部科学省教科調査官 田邊 暁子様の「学習指導要領の充実に向けて」と題した基調講演、共愛学園前橋国際大学・短期大学部学長 大森 昭生様の「予測困難な時代に『私』を生きる～Well-beingな暮らしと社会をめざして～」と題した講演。続いて、群馬県立渋川工業高等学校 大須賀 裕美教諭の「学びの質を高めるための授業実践の試みと効果～主体的に行動できる消費者市民の育成～」、同県立藤岡中央高等学校 小林 由香教諭の「群馬県版家庭科学習ノートの研究～GKノートでつながる群馬県の家

庭科教育～」と題した実践報告があった。2日目は、「高崎の伝統文化と食を堪能」、「文化とアートの融合伊勢崎・前橋探訪」、「世界に誇る産業遺産・富岡シルクツアー」、「自然×芸術わたらせ渓谷と桐生の魅力」、「ジャポニズム再び・世界を魅了する和食文化を探る」の5コースに分かれ、群馬県の歴史・産業・伝統文化・自然など、地域の特色を生かした多岐にわたる研修が行われた。

(2) 第12回全国高等学校保育研究大会<大阪大会>について

宣真高等学校(中川 千津江校長)を主管校として、「家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境の整備」をテーマに、11月28日(木)・29日(金)の2日間、約170名の参加の下で開催された。1日目は、宣真高等学校を会場に、大阪青山大学教授 戸松 玲子様による「多様な職場での活躍が期待できる保育士資格」と題した基調講演、宣真高等学校生徒の舞台発表と同校教諭によるワークショップ等があった。2日目は、ホテルグランヴィア大阪を会場に、同校 中川 千津江校長による「保育教育への取組～生徒募集につながる魅力ある学校づくり～」、同じく 中江 恵子教諭による実践報告、平安女学院大学教授 塩見 知利様による「発達を待つ造形保育～美しい造形活動その内容と方法～」と題した講演があった。最後に、文部科学省教科調査官 田邊 暁子 様から、「学習指導要領の『着実な実施』から『よりよい実施』に向けて」と題して講話をいただいた。

(3) 家庭科調査研究委員会

進路調査研究委員会は3回の委員会を開催し、家庭に関する学科を対象に令和5年度卒業生の進路状況調査を実施した。結果は、研究協議会(秋季)静岡大会で報告するとともに、家庭部会報144号(令和7年1月刊行)に掲載した。また、本年度も各都道府県代表理事等に進路要請訪問を依頼した。他の3委員会は、年4回の委員会を開催し、研究テーマの設定、アンケート調査の実施と回収、実践事例執筆者の選定・依頼と回収などをした。テーマは次のとおり。

- 専門教育 持続可能な社会の創り手の育成 ～不易と流行～
- 普通教育 家庭科教育とウェルビーイング
- 技術検定 学習指導要領を踏まえた保育技術検定の在り方
～共通教科「家庭」の指導の充実に向けて～

3 その他の事業

(1) 第72回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会(神奈川大会)

神奈川県立吉田島高等学校(岩崎 秀太校長)を事務局として、「いざ行かん!海・山越えて 羽ばたくかもめとみなと未来へ」をテーマに、8月1日(木)・2日(金)、鎌倉芸術館を会場に開催された。

「ホームプロジェクトの部」及び「学校家庭クラブ活動の部」において各7校が発表し、すべての発表者に「全国高等学校協会家庭部会賞」として、表彰状及びトロフィーを贈呈した。

(2) 第34回全国産業教育フェア(栃木大会)について

「技術と想像力は未来を変える～いちご一会の出会いから～」を大会テーマに、10月26日(土)・27日(日)、ライトキューブ宇都宮をメイン会場に開催された。家庭部会は、「ファッションショー」「作品展示」「意見・体験発表」「作品・研究発表」「クッキングコンテスト」に参加した。作品展示部門では、合同展示も含めてブロック代表の19校と開催の栃木県の7校が展示発表した。「意見・体験発表」部門は北海道江別高等学校、「作品・研究発表」部門は千葉県立館山総合高等学校で、従前どおり、全国高等学校家庭クラブ研究発表大会で発表した専門学科の高校の中から推薦した。クッキングコンテストでは、一次審査を通過した5校が出場し、金賞は新潟県立新潟中央高等学校、銀賞は青森県立百石高等学校、銅賞(全国高等学校長協会家庭部会賞)は栃木県立矢板高等学校であった。

(3) 機関誌「部会報144号」の発行

7月に「部会報143号」を、令和7年1月には「部会報144号」を発行した。

なお、これまで会員名簿を冊子として作成し配付していたが、今年度は家庭部会HPに掲載している。

(4) 独立行政法人教職員支援機構委託事業について

独立行政法人教職員支援機構から委託を受け、産業・情報技術等指導者養成を目的とする研修を実施している。令和6年度は8月20日(火)～22日(木)の3日間の日程で、都府県教育委員会から推薦された21名の家庭科教員等が参加した。初日と3日目は当部会事務局会議室を会場に、文部科学省教科調査官や元校長による講義、金融教育や保育、SDGsの視点を取り入れた授業計画などの大学教授等による講義、高校教諭による地域連携に係る授業実践事例の講話などがあった。食に関しては、専門学校を会場に、「災害時の食事」に関する講義や実習が行われた。研修成果は、各都道府県で開催される研修会等で報告され、広く還元された。

